

ノーモア・ヒバクシャ通信 第26号

発行 2015年12月25日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085

東京都千代田区六番町15プラザエフ6F

Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)

Email hironaga8689@gmail.com

郵便振替口座 00170-5-694752

(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

★もくじ

I. 第3回理事会の報告	P 1
II. インターネットでアクセスすれば被爆者に出逢うことができる	P 2
III. 部会、作業グループの取り組みから	
1. 資料庫部会	P 3
2. 継承交流部会	
(1) 被爆70年「被爆者として言い残したいこと」調査	P 3
(2) 11/14 被爆者運動から学び合う学習懇談会 「原爆被害の実相を追究する—被爆者・調査・運動—」	P 3
IV. 各地の取り組み、関連企画から	
1. 【岡山】10/24「被爆2世・3世の会」が発足	P 4
2. 【福岡】福岡市原爆被害者の会博多区支部から 被爆70年記念誌『伝えたい あなたへ』が発刊されました	P 5
3. 『2015年NPT再検討会議 ニューヨーク行動 日本被団協代表団 報告集』が発刊されました	P 5
4. 【東京】『おりづるの子 2015年NPT要請代表団報告集』が発刊されました	P 6
5. 【広島】広島県被団協の取り組みから	P 6
6. 【広島】11/21-22 世界核被害者フォーラムに参加して	P 6
7. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク	
(1) 【東京】12/14『ヒロシマ・ナガサキから未来へ2 片山さんの証言』をYoutubeで公開しました	P 7
(2) 【東京】12/19「ヒロシマ・ナガサキを 語り受け継ぐつどい」を開催しました	P 8
(3) ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク 第11回打合せのお知らせ	P 9
V. 《紹介》ご寄贈いただいた図書から	
■ 『関千枝子 中山士朗 ヒロシマ往復書簡 第I集 2012-2013』	P 10

I. 第3回理事会の報告

第3回理事会が10月31日(土)午後1時半から3時半まで、東京四谷の主婦会館

プラザエフ会議室で開かれました。主な審議事項と討議の概要は次の通りです。

(審議事項)

1. 「継承センター設立構想」の具体化に向けて
 - (1) 今後の取り組みにつて
 - (2) 改めてクラウドファンディングの取り組みについて
2. その他
 - (1) 東京都の仮認定の申請審査について

(討議の概要)

クラウドファンディングの目的は、被爆者の一人ひとりの「声」や被爆後の「たたかい」の記録を全世界に発信する「デジタル・アーカイブ」を作り上げるプロジェクト、その初期構築費用のための資金をご支援いただくものです。これらの記録が、今を生きる人、将来を生きる人にとって必要とされ、広く賛同される証としてこの手法を選んだものです。

画像の使用については関係者の了解を得ること、応援メッセージを要請することなどを確認しました。

「継承センター設立構想」への賛同者を募るために、その推進体制を編成することとしました。

税制上の優遇措置を得られるようにするためNPO法人の「仮認定」申請を東京都に行い、12月3日にNPO法人係が来訪し審査のための現地調査が行われます。(なお、調査は終了し関係書類を一部補強のうえ、1月に審査にかかる見込みです。)

II. インターネットでアクセスすれば被爆者に出逢うことができる

広島、長崎への原爆投下から70年が経ったいま、その体験を誰がどのように受け継ぎ語っていくのか、重要な課題となっています。そうした中で、被爆者のさまざま記録をインターネット上にデータベース化し情報を発信していく「デジタル・アーカイブ化」のプロジェクトがスタートします。言わば、インターネットでアクセスすれば被爆者に出逢うことができることをめざします。そのためのシステム構築には資金が必要です。この度、その初期構築資金をご支援いただくため、クラウドファンディングの手法を活用することにいたしました。このプロジェクトの詳細は、別紙案内文をご参照ください。

Ⅲ. 部会、作業グループの取り組みから

1. 資料庫部会

愛宕事務所では、12月5、6、12日の3日間、昭和女子大の松田ゼミ3年生のご協力で、資料整理作業を行いました。今回は主に「自分史つうしん ヒバクシャ」に作品を寄せられたみなさんからの自分史原稿や手紙、資料類を個人別、地域別に仕分けし整理していただきました。地域は北海道から沖縄まで、中には積み上げるとお一人で20～30cmになるほどの原稿を寄せてくださった方もあるなど複雑で大量の資料でしたが、熱心な手際でのよい作業のおかげで、ほぼ予定どおり完了させることができました。

南浦和の資料室では、11月17日と12月の毎週火曜日に、濱谷正晴さん（一橋大学名誉教授）の指導で、これまでに寄贈された書籍・冊子類の目録作成作業がすすめられています。協力くださっているのは、司書の資格ももつ松浦崇さん。現在、各都道府県・地域の被爆者の会や個人が刊行した手記、体験記、自分史などの出版物を優先的に入力しています。継承する会のWeb上でのデジタル・アーカイブの仕組みができれば、被爆者の会が発行した手記類のうち可能なものから公開していくことをめざしています。

2. 継承交流部会

(1) 被爆70年「被爆者として言い残したいこと」調査

被爆70年に日本被団協と協力して実施した「被爆者として言い残したいこと」調査は12月末が締め切り。回収数は668（12/21現在）と決して多くはありません。それでも、きれいな文字でびっしり書き込んでくださった90歳以上の方、家族に聞きとってもらい送ってくださった方、これまでに書かれた原稿や新聞記事などをたくさん添付して送ってくださった方など、1枚1枚の調査票にそれぞれの伝えたい思いが込められていることがよく分かります。

調査結果の入力作業や追加調査には多くの方々の協力、支援もお願いしたいと考えています。詳細は追ってお知らせする予定です。また、この調査では、回答者により詳しいお話をお聞きすることが可能かどうかも尋ねています。「可」と答えてくださった方に追加の聞きとり調査を実施するための条件整備も合わせてすすめています。

(2) 11/14 被爆者運動から学び合う学習懇談会

「原爆被害の実相を追究する—被爆者・調査・運動—」

11月14日（土）、被爆者運動から学び合う学習懇談会が立教大学池袋キャンパスの教室で開かれました。参加者は17人（うち被爆者7人）。

被爆者たちが自ら立ち上がり60年の長きにわたって続けてきた運動、中でも自分たちの苦しみの根源である原爆被害とはいったい何なのか、未曾有の体験の実相を追究する調査活動は、要求や運動を築き上げる土台ともなったもの。ということで、第1回目この日のテーマは「原爆被害の実相を追究する—被爆者・調査・運動—」と題して、濱谷正晴さん（一橋大学名誉教授・社会調査論、日本被団協「原爆被害者調査」の設計・分析に専門家として関わる）に問題提起をしていただきました。

濱谷さんは、これまでに行われてきた被爆者調査のうち、研究者が手掛けたものはほんの一部に過ぎず、その多くが被爆者運動のなかで行われてきたと指摘。「原爆被害者の会」

(1952 結成)にはじまり原水爆禁止運動から日本被団協結成にいたる救援運動による調査と、地域の被爆者の会による調査活動(数次にわたる調査を重ねてきた岩手と静岡を中心に)について、綿密な資料にもとづき紹介されました。規模も目的も様々な調査が全国各地でくり返し行われ、しかも初期のころから健康状態(放射線量調査や自覚症状への着目も)、生活状態(被爆前後の比較、家族破壊、病気と貧困の悪循環)にとどまらず、精神的な苦しみや被害者としての意見・訴えも把握するなど、国の原爆被害認識や政策と切り結ぶ調査が行われてきたことに驚かされます。

質疑討論では、「専門家や多くの人々の協力でこのような調査ができたのはなぜなのか」、「何もしてくれない国に対する怒りに燃えていた被爆者の強い思いに周りが動かされたのではないか」、「被爆から70年経ってもまだ被害は続いている、いま解明すべき被害の実相は何なのか」など多様な意見が出され、被爆者の運動は実に豊かな営みであり、その経験を伝え、知り、学べる場を工夫して創り出していく必要があることが話し合われました。

そうした場の一つとして、この学習懇談会は、来年、被団協結成60年にかけてシリーズで続けていく予定です。

《関連情報》いま公開中の映画「母と暮せば」の制作ドキュメントがNHKで放映されました。そのなかで、1985年被団協調査にもとづく濱谷さんの著書『原爆体験 六七四四人・死と生の証言』(岩波書店、2005年)を読み込みながら構想を練る山田洋次監督の姿に気付かれたでしょうか?若い俳優に「想像力を働かせて」とくり返し語っていた監督。その想像力(創造力)を喚起したのも、被爆者による調査で得られた膨大な被爆者たちのことばだったのでしょう。

IV. 各地の取り組み、関連企画から

1. 【岡山】10/24「被爆2世・3世の会」が発足

加百智津子(岡山「被爆2世、3世の会」)



10月24日に、多くのよき仲間を得て岡山「被爆2世・3世の会」を発足いたしました。ヒロシマのキノコ雲の下で、また92歳までの人生において、被爆のために苦労の多かった母の想いを聞いて育った2世として、こうした会の結成への強い思いがありました。30年余の平和活動を経てここまで漕ぎ着き、ここからまた、「核兵器廃絶の実現」という大海原へとさらなる航行を続けることとなります。

安齋先生には平和学の師として、私はこれまでたくさんのお世話になりました。被爆70年ということで、私どもの結成には、マスコミの関心を引き、大半のテレビ局、新聞社が取材、報道してくれましたので反響が大きく、いくつかのドラマもありました。

当日の様子を伝える岡山「被爆2世、3世の会」のニュースは継承ブログからご覧いただけます。

【お問い合わせ】

加百（かど）智津子 TEL&FAX 0866-93-3386

2. 【福岡】福岡市原爆被害者の会博多区支部から

被爆70年記念誌『伝えたい あなたへ』が発刊されました

福岡市原爆被爆者の会博多区支部より被爆70年記念誌『伝えたい あなたへ』（頒価1200円+送料）をご寄贈いただきました。写真に見る活動の記録、会員さん登場63人、体験記13編、「博多区版」ニュースの縮刷が掲載されています。

【以下、「編集後記」より抜粋】

……「70年記念誌」には、支部の主役である会員さんにたくさん登場していただきたく、これまで発行してきました「被団協・博多区版」に連載の、「会員さん登場」63人の転載をしました。内27人の方はすでに故人となられていますが、しかし、その方々もかつては博多区支部の一員として、共に活動されていた大切な仲間であり、広島・長崎での大きな歴史的な行事開催にも、一会員として多数参加され、その存在の大きさは「付録」の区版でも明白です。……この書が「あなた」から「あなた」へ、さらに別の「あなた」へと多くの方々に読み継がれていきますよう、願ってやみません。

そうすることで再び被爆者をつくらない、核兵器のない平和な世界実現に役立てていただけましたらと、祈念いたします。

3. 『2015年NPT再検討会議 ニューヨーク行動

日本被団協代表団 報告集』が発刊されました

2015年NPT再検討会議
ニューヨーク行動
日本被団協代表団 報告集



日本原水爆被害者団体協議会

日本原水爆被害者団体協議会より『2015年NPT再検討会議 ニューヨーク行動 日本被団協代表団 報告集』（頒価800円税込）をご寄贈いただきましたのでご紹介します。

【お問い合わせ】

日本原水爆被害者団体協議会

TEL 03(3438)1897まで

4. 【東京】『おりづるの子 2015年NPT要請代表団報告集』が発刊されました

東京被爆二世の会（おりづるの子）より『おりづるの子 2015年NPT要請代表団報告集』（一部500円、部数にかかわらず送料とも）をご寄贈いただきましたのでご紹介します。

【お問い合わせ】

東京被爆二世の会（東友会内）

Tel. 03-5842-5655

5. 広島被団協の取り組み



箕牧智之

広島県被団協では別組織として「被爆を語る会」を設けて全国から来られる修学旅行生に被爆証言をしています。私も5月、10月を中心に証言させていただいています。今年はNPTでニューヨークに行きましたので証言の中にこの話もしています。口でしゃべるだけではなかなか子供たちに伝わりにくいので写真や絵を用いて証言して子供たちの目線に会うよう努力しています。学校へ行った時などは

映像で話すことにしています。

今年特に印象に残った学校は11月に来られた御殿場特別支援学校・高等部です。折り紙を額に入れて富士山をかたどった色紙折り紙で、資料館に贈られました。また筋ジストロフィーの生徒さんと出会えたことでした。

6. 世界核被害者フォーラムに参加して

山根和代（ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会理事）

11月21日から22日まで広島で開催された世界核被害者フォーラムへ参加しました。23日は仕事で残念ながら参加できませんでした。このフォーラムには、広島や長崎の被爆者だけでなく、福島原発事故の被害者や、ウラン採掘の際被曝した人々や核実験のヒバクシャを含むフォーラムでした。ロシア、ウクライナ、オーストラリア（アボリジニ）、中国、インド、ドイツ、韓国、イラク、アメリカから参加者がいました。

ロシア人の報告によると、チェルノブイリ原発事故以降1992年に被曝者の補償法ができたものの不十分で、被曝者は1996年からロシア裁判所で裁判を継続しているそうです。1987年に創設されたNGOの「ラディミチ」では、被曝者の医療サービス、子どもたちの夏キャンプに取り組み、リハビリテーションセンター、若者センター、チェルノブイリ情報センターなどで多彩な活動をしています。

オーストラリアでは1950年代に英国が核実験をして先住民が被曝しました。その時のヒバクシャの娘であるカリナ・レスターさんは先住民の民族自決と文化の保存に努力し、さらに放射性廃棄物処理場誘致問題などで積極的に発言をしています。

中国の核実験の結果、アニワル・トフティさんはウイグル自治区における癌の広がりや核実験によって引き起こされた放射能汚染を医師として明らかにしました。このことを欧米のジャーナリストに知らせると中国を追われ、現在はイギリスに難民として生きているそうで驚きました。

インドのウラン鉱山における放射能反対同盟のアシッシ・ビルリさんは、ヒバクシャの写真を通して核問題の恐ろしさを発信しています。放射能が人間に与える影響を示した写真の展示を通して、平和教育をする必要があると思いました。インドはチェルノブイリや福島原発事故から何も学ばず、日本はインドに原発を輸出しようとしています。このような動きを政府は抑圧していますが、反核団体はそれに反対しています。

イラクの医師であるジャワッド・アルーアリさんは、1991年アメリカが湾岸戦争や2003年のイラク戦争で使った劣化ウラン弾の犠牲者について報告しました。がんや悪性腫瘍などで苦しむヒバクシャに対して、イラクでは医療サービスの提供が遅れていることを指摘しました。

アメリカのウラン鉱山先住民のペトーチ・ギルバートさんは、50年にわたってウラン産業が、土地や水、空気を汚染し、人々の健康を蝕んできたこと、そして住友商事が一部所有するロカ・ホンダ鉱山が新たに開かれる計画について述べました。またネバダ核実験のヒバクシャであるメアリー・ディクソンさんは、1951年から1992年の間に928発の核兵器を爆発させたため、米国本土のすべての場所で放射性降下物の影響を受けたそうです。しかしそれを理解していないアメリカ人が多く存在しているので、彼女は著書や演劇でこの問題を取り上げています。

様々な世界のヒバクシャの話を通して、核兵器と原発の恐ろしさを再認識しました。今後核被害者の国際ネットワークを作って、核問題に対応していく必要性を考えさせられました。

7. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク

(1) 【東京】12/14『ヒロシマ・ナガサキから未来へ2』

片山さんの証言』をYoutubeで公開しました

この作品は2014年8月に行われた「被爆の証言を聞くつどい」(ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク主催)での片山昇さん(東京都日野市在住)の証言記録をもとに、受け継ぎ手の大学生が台本を作成し、ご本人も一緒にディスカッションをして制作しました。作品を通じてヒロシマ・ナガサキを発信すること以上に、被爆者と受け継ぎ手が一緒に作品を作る、その過程を大切にしました。

台本も、音声映像の編集も素人ですので、まだまだ改善の余地があると思います。最近

はファミリームービーを自分で編集する方も少なくありません。そうしたスキルをお持ちの方ならば、もっと上手に編集できると思います。

これまで作った作品は youtube でご覧いただけます。

『ヒロシマ・ナガサキから未来へ1 坂下さんの証言』

<https://youtu.be/2m9Bo9g9WZg>

『ヒロシマ・ナガサキから未来へ2 片山さんの証言』

<https://youtu.be/fIdabp6jZUA>

みなさんも、こうした作品を作ってみませんか。お問い合わせはノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会まで。

《制作手順》

- ①証言を聞く、読む
- ②台本をつくる
- ③ディスカッション
- ④音入れと画像の編集
(使用したソフトは Windows ムービーメーカー)
- ⑤公開 (youtube など)

《使用機材》

デジカメ、I Cレコーダー、パソコン

【お問合せ】 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

TEL: 03 (5216) 7757 メール: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp

(2) 【東京】12/19「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を開催しました

12月19日に東京四ツ谷の主婦会館プラザエフで「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」が開催され、120名の参加で、盛会の内にうちに終了することができました。「つどい」の様子は首都圏ではPM8時45分からのNHKのニュースでも報じられました。

「つどい」のまとめと閉会挨拶の中で『2015年NPT再検討会議に向けて 被爆者からのメッセージ』に掲載されている証言を朗読していただいた俳優の岡崎弥保さんが、ご自分のブログでこの「つどい」にふれられています。

言の葉つむぎ <http://ameblo.jp/ohimikazako>

【参加者の感想から】

- ・高校、小中学校での語り部が激減していることが心配。教育委員会（文科省）への働き



かけをしたい。「立ち上がる被爆者の姿を伝えたい」という中学の先生の報告に感動しました。(男性 73歳 被爆者)

- ・来年は私たちの組織結成60年です。またたくさん活動して国内外に発信していきたいと思えます。(男性 73歳 被爆者)
- ・若者はまず知ろうとすることが大切であると改めて感じた。当事者の気持ちを重んじなければ知識のままで終わってしまう。継承とは事実を伝えるだけではなく、その想いもつなげていくことが重要だから。(男性 34歳 教員)
- ・メディアや本といったものから間接的に学ぶのではなく、被爆者の方々の書いた史料や交流を通じて戦争や平和について学びたいと思いました。(女性 21歳 学生)
- ・私は被爆者です。若い世代が次世代にヒロシマ・ナガサキを語り受け継いでいこうという意気、取り組みをすばらしいと感じました。自分の体験はひとりでも多くの人々に語り伝えなければと思いました。(女性 79歳 被爆者)
- ・NPT生協代表団として被爆者のみなさんと一緒に行動させていただきました。一か所でも多く自分の体験を伝えたいと考えています。(女性 51歳 生協組合員)
- ・若い方の出席も多かったですね。国内で活動されている方、海外にも伝えていこうという方など、幅ひろくヒロシマ・ナガサキを継承されている活動を知ることができました。充実した内容で、この活動に参加できてよかったと思いました。体験の聞き取りの本、読ませていただいています。司会の方、よかったです。岡崎さん、朗読が聴けて良かったです。(女性 65歳)
- ・被ばくへの関心の乏しい人たちが(少しでも)こちらを向いてくれるよう地道ながら、地域の日常の中で折に触れ働きかけ続けていきます。(男性 80歳)
- ・教育現場で、証言でうかがったことを生かして子どもに伝えています。さらに何が出来るかを考えていきたいと思えます。(女性 28歳 教員)
- ・被爆証言を90歳の現在、私の使命と続けています。(女性 90歳 被爆者)

2016年1月に今回の「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」の振り返りを行い、その後は「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク」の活動はノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の活動として引き継いでいきます。

(3) 【東京】ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク

第11回打合せのお知らせ

10月23日にノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の第1回継承交流部会を開催しました。

継承交流部会では、「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産継承センター設立構想」にもとづき、「継承・交流活動」の中身～被爆者と継承者とをつなぎ・学び合う諸活動の「場」となる、被爆者の歩み・運動を伝える～をつくっていくことが課題となっています。

そこでは、①一人でも多くの被爆者の証言を残すこと、②なぜ原爆が使用されたのかを明らかにすること、③被爆者運動は何を訴え求めつづけてきたのかを学び合い知らせること、④継承者の養成の4つのテーマが提起されました。

①は「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク」がこれまで取り組んできた課題でもあります。下記日程で今回の「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」の振り返りなどを行い、ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークの活動は、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の活動として引き継いでいきます。

記

【ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク第11回打合せ】

日時： 2016年1月29日（金）18:30～19:30

場所： 東京四ツ谷 主婦会館プラザエフ5F会議室

内容： 「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」の振り返り

これからの取り組みについて

*打ち合わせ終了後に懇親会を予定しています。参加される方は、懇親会参加もあわせてご連絡ください。

V. 《紹介》 ご寄贈いただいた図書から

■ 『関千枝子 中山士朗 ヒロシマ往復書簡 第I集 2012-2013』

(西田書店、定価1,500円+税)

ともに広島で被爆し、大学で一年違いの先輩・後輩だった中山さん(『死の影』『宇品棧橋』など原爆を書き続けている作家)と関さんによる往復書簡。知の木々舎のブログ「核なき世界をめざして」のコーナーで続けられてきたものをまとめた第1集。手紙を交わしながら、それぞれの「記憶」が連鎖的に想起されていきます。そこから、同年代で被爆した人々、被爆していないのに原爆に熱心にとりくむ人々とのつながりや、死んで逝った人たちから託された思いが色濃くにじみ出てきます。